

風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことで、近年では特に、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」の発生による大雨の影響により、全国各地に大きな被害をもたらしています。

このような自然災害から身を守るためには、さまざまな自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

氾濫の種類

内水氾濫

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨を流しきれなくなることがあり、溢れ出した雨水により、建物や土地・道路等が水に浸かってしまうこと。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。



外水氾濫

河川の堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して、家屋や田畑等が浸水すること。外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み、広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

■ 台風の大きさと強さ ■

◆ 台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

■ 大きさの階級分け ■

大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

■ 強さの階級分け ■

強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

- 屋根**
 - 瓦のひび、われ、ずれ、はがれはないか
 - トタンは、めくれやはがれがないか
- テレビアンテナ**
 - 錆びたりゆるんだりしていないか。不安定なアンテナは固定する
- 台風への備え**
- 雨どい**
 - 雨どいに落ち葉や砂などが詰まっていないか。断目ははずれや塗料のはがれ、腐りはないか
 - 雨戸にガタツキや緩みはないか、ちゃんと閉まるか点検補修を
- ベランダ**
 - 鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ
- プロパン**
 - 固定されているか
- ブロック塀・板壁**
 - ブロック塀にひびわれや破損箇所はないか
 - 板塀にくらつきや腐りはないか
- 窓ガラス**
 - ひびわれ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、窓に飛散防止フィルムを貼る、外側から板でふさぐなどの処置を

早い段階で避難しましょう

? どこへ?

- 歩いて行ける近くの避難所・避難場所
- 親戚、友人の家、より安全な場所など

避難の準備は事前におきましょう

災害が発生してから避難準備をしていては、逃げ遅れてしまいます。避難する時に持って行く物を事前に準備しておきましょう。

夜の避難は危険です!

夜は視界も悪く、音も聞こえずらく大変危険です。大雨が降り続きそうな場合は、明るいうちに早めに避難しましょう。

逃げ遅れたら高い場所へ!

? どこへ?

- 自宅の高いところ
- すぐ近くにある高い建物など

自宅にとどまる場合は覚悟を!

浸水して孤立した場合、例えば以下のような状況になるかもしれません。

- 停電により、テレビから情報が入ってこなくなる。
- 排水口やトイレが逆流し、衛生環境が悪くなる。
- 病人が出ても何もできなくなる。
- 備蓄していた水や食料がなくなる。

自宅にとどまる場合は、備蓄品を3~7日分ほど準備しましょう。不便な環境に耐える覚悟が必要です。